

基盤技術研究促進事業(民間基盤技術研究支援制度)

平成 14 年度中間評価結果

平成 15 年 4 月 22 日

基盤技術研究促進部

平成 14 年度は 13 年度採択の 4 プロジェクトに対して中間評価を実施した。評価結果及び対応方針は以下のとおり。

プロジェクト名	委託先	評価結果概要	対応方針
粉体製造技術を利用した次世代高容量二次電池用ナノコンポジット合金材料の創製と加工一体化技術に関する基盤研究(13～16 年度)	福田金属箔粉業(株)	中間目標は達成されており、研究内容について十分評価できる。 今後、開発要素について良く整理し、事業化計画も含めた総合的な研究開発の方向性を一層明らかにしていくことが重要である。また知財権についても戦略的な取り組みを行うべきである。	現行どおり継続する(ナノテクノロジー・材料技術開発室)
微小流体工学技術を応用した膜蛋白質結晶成長システムの開発(13～15 年度)	プロテインウェブ(株)	継続については問題ないと考える。アイディアは良いが、その有効性を裏付ける基礎データが乏しい。デバイス開発中心の事業からサイエンスの部分も活かした事業計画を考えた方が良いのではないか。	現行どおり継続する(バイオテクノロジー開発室)
ヒューマンセンシングによる情報アクセス・環境制御に関する研究(13～16 年度)	(株)竹中工務店	中間目標は達成されており評価できる。 事業化の的が絞り込めていない。想定される幅広い用途の中で適用分野の絞り込	計画等を一部修正し実施する(電子・情報技術開発室) ・市場ニーズの把握、競合技術との

		<p>みを行い、将来性が認められる分野について要求仕様を明確にしたうえで研究を継続すべき。</p> <p>知財権について戦略的な取り組み行うべきである。</p>	<p>比較を行い適用分野の絞り込みを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絞り込んだ分野に求められる仕様を明確にし、その仕様に基づき、対象分野の実用化に必要な具体的な目標設定を行う</li> </ul>
<p>ダイオキシン等有害化学物質のオンサイト測定・リスク評価基盤技術の開発(13～15年度)</p>	<p>那珂インストルメンツ(株)</p>	<p>各要素技術は大いに推進すべきものであり、研究も一定の進展が認められる。</p> <p>競合技術や競合製品との比較が不十分であり、事業化への展望が不明確である。</p> <p>要素技術を絞り込み、競争力がある認められるものに特化させて研究を進めるべき。</p>	<p>計画等を一部修正・縮小し実施する(産業技術開発室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶液試料のレーザーイオン化法の開発を中心課題とし研究を進める</li> <li>・マイクロMS装置の想定分野,対象を絞り込む</li> <li>・小型真空ポンプの開発は既に要素開発を完了し、実用化段階であるため中止する</li> <li>・微量液体駆動装置は達成目標をより高レベルに変更する</li> </ul>